

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成 25 年 5 月 16 日 (2013.5.16)

【公開番号】特開 2011-218241 (P2011-218241A)

【公開日】平成 23 年 11 月 4 日 (2011.11.4)

【年通号数】公開・登録公報 2011-044

【出願番号】特願 2010-86596 (P2010-86596)

【国際特許分類】

B 0 2 C 19/20 (2006.01)

B 0 2 C 19/08 (2006.01)

B 0 2 C 7/08 (2006.01)

B 0 2 C 7/12 (2006.01)

G 0 1 N 1/28 (2006.01)

【 F I 】

B 0 2 C 19/20 Z

B 0 2 C 19/08

B 0 2 C 7/08

B 0 2 C 7/12

G 0 1 N 1/28 T

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 3 月 18 日 (2013.3.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

粉砕用のキネとウスとからなる粉砕器において、キネ底面及びウス底部に溝が形成され、前記溝がキネ底面及びウス底部の円形を 3 分の 1 乃至 8 分の 1 のいずれかに分割した扇形の 1 の分割線に並行な凸部と凹部により形成されることを特徴とする微粉砕器。

【請求項 2】

前記溝の間隔は、凸部が 0.5 ~ 2 mm、凹部が 1 ~ 3 mm で、凸部に対する凹部の深さが、0.3 ~ 1.0 mm である請求項 1 に記載された粉砕器。

【請求項 3】

前記溝が、不連続な凸部と凹部により形成される請求項 1 又は請求項 2 に記載された粉砕器。

【請求項 4】

前記キネが卓上ボール盤のチャックに取り付けられたシャフト付きキネで、前記ウスが卓上ボール盤のワークテーブルに定置されている請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載された粉砕器。

【請求項 5】

前記卓上ボール盤の回転数が 800 rpm ~ 2000 rpm である請求項 4 に記載された粉砕器。

【請求項 6】

前記シャフト付きキネに飛散防止カサが取り付けられ、前記ウスに飛散防止カバーが取り付けられた請求項 4 又は請求項 5 に記載され粉砕器。

【請求項 7】

前記飛散防止カバー内面上段部と内面中段部の傾斜角が $110^{\circ} \sim 140^{\circ}$ であり、飛散防止用カサ水平部と周縁部の傾斜角が $100^{\circ} \sim 130^{\circ}$ である請求項6に記載された粉砕器。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

< 1 > 本発明は、粉砕用のキネとウスとからなる粉砕器において、キネ底面及びウス底部に溝が形成され、前記溝がキネ底面及びウス底部の円形を3分の1乃至8分の1のいずれかに分割した扇形の一の分割線に並行な凸部と凹部により形成されることを特徴とする微粉砕器である。

< 2 > さらに本発明は、前記溝の間隔が、凸部が $0.5 \sim 2 \text{ mm}$ 、凹部が $1 \sim 3 \text{ mm}$ で、凸部に対する凹部の深さが、 $0.3 \sim 1.0 \text{ mm}$ である粉砕器である。

< 3 > さらに本発明は、前記キネが卓上ボール盤のチャックに取り付けられたシャフト付きキネで、前記ウスが卓上ボール盤のワークテーブルに定置されている粉砕器である。

< 4 > さらに本発明は、前記シャフト付きキネに飛散防止カサが取り付けられ、前記ウスに飛散防止カバーが取り付けられた粉砕器である。